

# 道路網の整備に力こぶ

## 市道の舗装率は今年度で五二%

みなさんから、最も要望の多い道路整備——躍進するまちの大動脈として、市道の整備に力をそそいできました。

今年の三月末で、市道延長二百七十三キロのうち、四八％にあたる百三十一キロが舗装されました。今年度も十・四キロを舗装する計画です。工事が順調に進めば、来年の三月には舗装率五一・八％になり、六十年に舗装率を五〇％にと進められてきた市道の整備も、今年度中に目標が達成されることとなります。

これからも全市道の完全舗装

## 用地取得を完了

市街地交通の緩和と高速交通体系に対処するため、都市計画道路の整備改良を計画的に進めてきました。

新富月橋から国道を通り、みの口三方に接続する古川・諏訪木線は、新富月橋から国道までの六百五十四メートルに完成しています。国道からみの口三方までの千六百六十六メートルについては、昨年度までで百三十三メートルを買収し、改良を行いました。

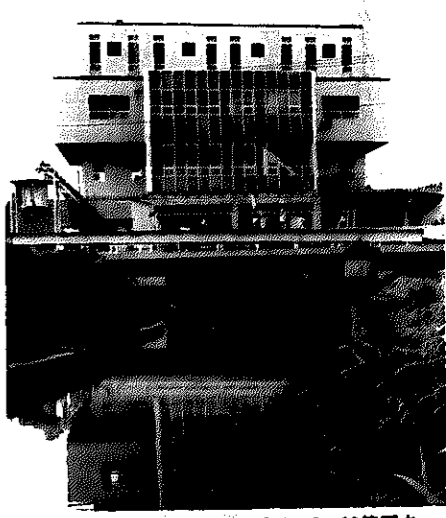
また、新味方橋から国道八号線に通じる鯉淵・古川線は、国道から新町通り（四ツ興野地内）

## 白井バイパス用地買収へ

白井バイパスは昨年、国の公共事業として採択され建設へ向けてスタートを切りました。現在、用地の買収などが進められています。

また、茨曾根バイパス（全長六百五十五メートル）は、今年七月二十一日に開通しました。

除雪のさいの機動力アップのために、この五年間でグレーダ二二台、スノーロータリー三台を増強しました。



地盤沈下対策事業の一つとして、13億円あまりの工費で52年に完成した中部排水機場

## 都市ガス今年度で全市に供給

白根市の都市ガスは、地盤沈下に伴う天然ガス規制により、三十八年十一月に事業認可となったものです。

当初は、地盤沈下の大きい区域（旧町部、古川、田中、根岸の一部）を対象にガス導管を布設し、供給をはじめました。その後四十七年ころになると、他の地区にも都市ガスをとの要望が多く出て、四十九年度から全市供給をめざしたガス拡張事業がはじまりました。

昨年度までで、十四億八千八百万円のお金をかけ、新飯田地区を除く全地区にガス導管を布設し、供給を開始しています。

今年度、新飯田地区に導入することにより、全市供給が実現されることとなります。

## 地盤沈下対策に百七十億を投入

地盤沈下対策は、三十六年から緊急対策事業として、緊急に施工の必要な所から復旧工事に取り組んできました。これまでに県営事業として百七十二億円の巨費が投入され、農業用の排水路の整備や白根排水機場、中部排水機場などを建設してきました。

地籍調査は計画面積の七〇％を完了

土地の境界、地籍、地目、権利などを明確にしようと、四十二年から着手してきた国土地調査事業（地籍調査）は、五十五年年度まで計画面積の七〇％にあたる二百三十二万平方メートルの調査が完了しました。

## 調和のとれた産業都市

道路網については、高速自動車道の完成とあわせて、国道八号線拡幅及び諏訪木、白井、茨曾根バイパスの早期完成を図り、住宅密集地への混入を避けず、また、都市計画道路の整備を図りながら、日常生活に密着した市道については、積極的に整備し舗装率五〇％をめざします。冬期間の道路交通については、除排雪機械により円滑な交通の確保に努めます。

なお、市街地に駐車場の建設を図ります。

■都市ガス 都市ガス供給の要望が高まりつつあるため、関係機関と協議調整し、市全域に供給が実現するようめざします。

■土地利用 理想とする都市像の実現をめざし、快適で機能的な都市空間をつくりだす総合的な土地利用を図ります。

■郷土保全 白根市は、輪中地帯及び地盤沈下地帯という特殊地域のため、水害発生の可能性が大きい。両河川の安全度向上のため河道の拡幅、蛇行の整理、護岸施設などの整備を図る抜本的改修事業の早期遂行を期します。また、地盤沈下については、地下水汲み上げの規制を強化するとともに、施設の早期復旧をめざします。

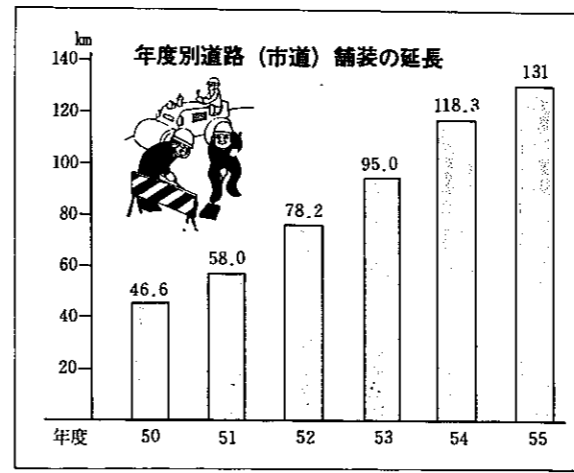
■農業 農業振興については、他産業と所得均衡のとれた豊かな農業を目標とします。稲作を中心としながら、新潟市近郊の利点を生かして野菜、花き、園芸などを積極的に振興する。そのため生産基盤の整備、集団化など経営の近代化を推進し、生産性の向上を図り、総合食糧の供給基地とします。企業の農業に対応できる、優秀な経営能力を有する農業者の育成を図ります。

■工業 大部分を占める中小企業の振興に重点を置きます。工業の実態を把握し、企業の体質改善、事業の協業化など組織化を促進するとともに、金融の円滑化により生産性の向上を図っていきます。また、工業団地の造成により市街地内に立地し、近代化の遅れている企業を移転し、集団化を促進していきます。

■労働力定着化のための公営勤労者住宅、労働者福祉施設の建設をめざします。

■商業 白根市の商業は、ほとんど中小企業によって占められています。このため、中小企業に対する指導体制を確立し、消費流通構造の変化に対応した共同化、協業化など経営の近代化を促進していきます。また、商圏の拡大を推進する一方、新市街地の形成、市街地再開発など都市構造の変化に対応した新商店街の形成、融資制度の充実により商業機能の向上を図り魅力ある商店街づくりをめざします。

■観光 自然景観を生かし、伝統行事と地域産業の振興と結びつけた観光開発をめざします。



上八・牧戸石線（五百四十二メートル）の舗装工事。七月には幅員四メートルの道路が完成しました。

## 土地利用計画を見直し

市街化区域と、市街化を抑制

## 活力ある農業をめざし

### 目標達成のため各種事業を実施

- 白根市の農業と農村の問題点を克服し、本市の特性を生かした農家の発展を図るため、次の四つの柱をかかげました。
- ①白根市農業を総合的食糧基地として全面的に発展させる
  - ②農家のくらしを総合的に高める
  - ③新しい農業生産の担い手を育成する
  - ④住みよい農村社会、生活環境をつくる

### この成果は

この結果、五年間に次のような成果がみられました。

- 農業機械化の一貫体系が確立され、技術水準の向上とともに省力化と生産性の向上が図られました。
- 米の生産調整が年々強化されるなかで、果樹・野菜栽培地帯



カーネーション、稲作、果樹と複合経営を実践する若者

また、広域利用施設などをはじめ、農業近代化施設を計画的に配置し、農業金融を効果的に活用しながら、農業の合理化と生産から流通に至るまでの一連の機構を改善し、農産物の安定販売・販路拡大を促進してきました。さらに、農村生活の高度化に伴い、その生活基盤を充実させるために、集落農道をはじめ、集落のコミュニティ施設などの建設を積極的に進めてきました。

では複合化を促進しながら産地の拡大を図ってきました。

- 経営近代化施設などの整備は、計画に基づきほぼ順調に進められました。
- 果実や野菜は、広域集出荷施設の整備とともに、生産や流通過程の一部を組織する動きが活発になってきました。
- 圃場整備事業は、計画の四一四％が実施され高生産力基盤が形成されつつあります。
- 各生産部門ごとの振興協議会から統一した市農業振興協議会に改組し、各団体・機関の指導体制の整備が図られました。

### 第三次農業振興計画を策定

農業を取りまく環境はいぜんと厳しいものがあります。こうした中で、本市農業の振興を図っていくことは、以前にもまして困難なことは明らかです。

しかしながら本市農業がもっている力量と、特徴を最大限に発揮し、農業者と農業関係団体が力を合わせて一体となり、これらの困難な課題に正面から取り組み、一定の方向を見出し、新たな発展を図ることは可能です。

そのため、これまでの第二次農業振興計画の問題点をつかみ、総合計画との整合性を保ちながら今後の農業を発展させるために、六十年を目標年次とした第三次農業振興計画を策定しました。



和泉農工団地は、現在10社が操業中

## 和泉農工団地 出荷額は百七十億円

和泉農工団地は、国の法律に基づいて四十九年に和泉地区の一部（十六・三町）を団地指定し、工場誘致を図ってきたものです。

この農工団地は、農業の近代化や構造改善などによる余剰労働力や日雇い、人夫をよぎなくされている人に安定かつ恒常的な就業の場をつくり、農家所得の向上をめざすとともに、若い人たちの労働力の市外流出を防止することをねらいとしています。

現在、そのほとんどに企業立地が確定し、十社が操業しています。団地内の企業従業員数は千八百人で、昨年の出荷額は約百七十億円にものぼっています。

## 中小企業近代化 資金制度を拡大

最近の厳しい経済環境の中、市では少しでも中小工業の近代化を助けるために、昨年、中

## 五十二年に融資 料展示室を設置

三百余年の伝統を誇る勇壮な大蔵合戦には、毎年約十万人の人が訪れます。しかし、天候や風向きなどの関係でせっかく訪れる見物客から合戦の醍醐味を味わえず、また合戦を見られずに不満を聞かれることもありました。

こんなことから、合戦にちなんだ資料など三百点を展示した展示資料展示室を、五十三年五月に教育委員会内の民俗資料館に増設しました。

また、五十二年から合戦期間を社会情勢の変化などに伴い、従来の七日間を五日間に短縮しました。

小企業近代化資金融資制度の条例を一部改正しました。融資限度額の拡大、返済期間の延長など融資を受けやすくなりました。

このほか、商店街の近代化促進のための商店街診断や店舗診断、巡回指導などを商工会と協力しながら行ってきました。